

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 大豆の安定生産・品質の向上を推進
計画作成主体 : 北見市農業再生協議会
対象品目 : 大豆 (産地面積: 201.18ha)
主な取組主体 : 端野町大豆刈取組合
株式会社イソップアグリシステム
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
(10a当たり)
助成金の活用 : 生産支援事業 (大豆用コンバイン)
状況

ポイント

畑作物の適正な輪作体系の確立、省力的な収穫体制の整備、ICTの活用などスマート農業の推進による生産コスト削減などを推進し、大豆の販売額の14%増加を図る。

地区の概要



産地の現状と目標

現状: H26年度

- 作付面積: 130ha (農業者: 31名)
生産量: 292t
- 規模拡大に伴い、省力的な小麦の作付けが増加しており、輪作体系が崩れている。

目標: H30年度

- 作付面積: 201.18ha (農業者: 37名)
生産量: 466t
- 畑作物の適正な輪作体系の確立のため大豆の作付拡大に取り組むとともに、効率的・継続的な大豆生産体制を構築する。



推進体制

北見市、きたみらい農業協同組合、農業改良普及センター、ホクレン農業協同組合連合会等が、各取組主体と連携し、事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

- 端野町大豆刈取組合において、過作である小麦の一部を大豆に転換するとともに、品種を「とよみずき」に統一。
- (株)イソップアグリシステムにおいて、実需者ニーズに応じた大豆生産の推進と全量契約栽培を実施。

事業効果

収穫機を導入することにより、適期に収穫する体制が確立でき、品質の向上が見込まれるとともに、作業の省力化も図られることで作付面積の増加にもつながる。
このことにより、農業者の所得向上につながり、産地の収益力向上が図られる。

~大豆の販売額~

